

ちよつと便利なユニークな下町の 老舗粉砕機メーカー

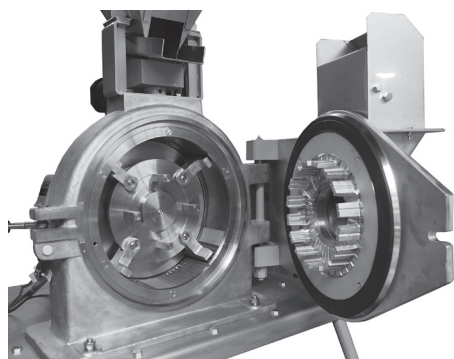
榎野産業株式会社

1926（大正15）年、創業者の榎野義一郎氏が、独自設計した粉砕機の製造を開始したのが榎野産業の始まりだ。従来の粉砕機と異なり、破碎部位の回転板と、ふるいの役目をするスクリーンを用途に応じて交換できるようにしたのが最大の特長で、「マキノ式万能粉砕機」と呼ばれた。そして、このマキノ式粉砕機は、戦後日本の食糧難を支えた歴史を持つ。穀類を粉にして配給することを計画した当時の政府は、マキノ式粉砕機の機能に着目。1万台の生産計画を掲げるとともに、同社に設計図面の公開を求めたという。やがて公開された図面をもとに、マキノ式粉砕

機は三菱重工業など8社13工場で製造され、食糧難解決に寄与した。累計販売台数は1万台超、いまなお同社のメイン製品の一つだ。

◎顧客の困りごとを解決する粉砕コンサル目指す

粉砕機の種類や用途は、実にさまざま。榎野産業が手掛ける顧客も食品関係だけでなく、建材廃材等のリサイクルや、携帯端末等のレアメタルなど幅広い。このため破碎、粗粉碎、微粉碎から周辺機器まで、数多くの商品を取り揃え、千葉には持ち込んだ原料を粉砕できるテスト工場を構えるが、3代目となる榎野利光社長は、「顧客の多様なニーズと困りごとを解決しようとやってきた結果」と説明する。例えば「クリーンシフター」という製品。飼料を作る粉砕機のユーザーから、穀物袋の梱包糸が紛れ込んで、給餌装置が故障すると聞き、糸くずを連続除去できる選別機を開発してしまった。



現在のマキノ式粉砕機

●社是・理念

「ちよつと便利なユニークな会社」をモットーに、変化を恐れず顧客第一主義での物作り、サービスをする会社を目指す。



代表取締役

榎野 利光 氏

● 長寿の秘訣

日本の粉砕機のパイオニアを築いた1社。自社の確かな製品技術もさることながら、長い歴史のなかで培った粉砕に関する高い知見と、海外を含めて業界に精通した情報・人脈の存在も大きい。そして何より「会社はおカネを儲けるところではなく、関係する人がしあわせになるところ」と、真っすぐに語る経営トップの存在が大きい。



戦後間もない頃の生産現場

● 会社概要

創 業：1926（大正15）年2月

所 在 地：東京都葛飾区東四つ木 2-11-8

資 本 金：2,000 万円

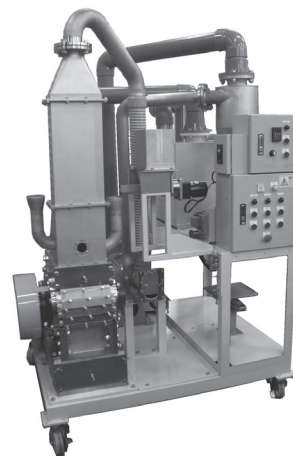
事業内容：破碎・粉砕、分級・分離、混合機器および周辺機器の製造販売

社 員 数：31 名（2019 年 12 月現在）

URL：http://www.mkn.co.jp/

ない場合は、他社を紹介することもある。「紹介では売上にはならないが、相手は当社を記憶する。長い目で見れば、いつか注文になって戻ってくることもある」という。

あくまで顧客メリットに向き合う姿勢を貫く同社も、創業100年を間近に控える。今後の方向性について、榎野社長は「量的拡大を求めず、ソフト部分を軸にした一段の質的向上と、環境変化への対応を心掛けていく。同時に葛飾の下町イメージを大事にして、うまいけど安いB級グルメのような、ちょっと便利なユニークな会社を目指したい」と、強面のなかに和やかな笑みをのぞかせる。



プラスチック微粉砕機

海外製品も少なくない。欧米アジアなど世界各国のメーカーと、日本における代理店契約を結んでいる。榎野社長は、若い時分から海外の展示会に赴き、他社にはない製品を見つけては、国内販売する戦術を進めてきた。

「当社はいわばよろずやであり、粉砕に関するコンサルタント。自社製だろうが、他社製だろうが、顧客の課題を解決することが使命」（榎野社長）と、きっぱり。自社で解決でき